

現場で向き合い続ける 途上国にて病院組織の近代化と看護師育成に尽力



くす がわ とみ こ
楠川 富子 Tomiko Kusugawa

JICA シニア海外ボランティア
カンボジア国立小児病院 看護部長

JICA Senior Volunteer
National Pediatric Hospital

香川県出身。高松赤十字病院で看護師を38年間務めた後、2006年よりシニア海外ボランティアとしてカンボジアの国立小児病院に赴き、看護管理を指導。同国で初めての「看護部」を立ち上げるなど、看護師の意識改革と看護管理体制の確立という人材育成と組織設備の両面のアプローチにより、看護の質向上を実現。その功績が認められ、2010年にカンボジア国王からゴールドメダルを授与。国立小児病院から異例の活動任期延長要請、JICA緒方貞子理事長から表彰されるなど活動が高く評価されている。

推薦者 **南野 知恵子** 前参議院議員、元法務大臣

楠川富子氏は、看護師の経験を活かし、2006年よりJICAシニアボランティアとしてカンボジアの国立小児病院にて、現地の看護師たちに看護指導を行っている。高松赤十字病院で看護師を38年間務め、59歳で病院を早期退職した後、「再び目的を持った緊張感のある生活をしたい」と看護師の経験を活かせるJICAシニアボランティア活動への挑戦を決意。英会話・体力増進のトレーニングなどに励み、JICAの試験に合格した。

まずは、カンボジアの国立小児病院に配属されたが、現地の看護教育の質は良好ではなく、制度にも不備があったため、看護師の社会的評価は低かった。指導者や待遇面に恵まれない看護師たちの日常は、勤務時間も守られず、医者の診療補助のみに終始するだけ。楠川氏は、毎日看護師たちと同じ目線で活動する過程で「看護師の仕事は、診察の補助だけではない。根拠に基づいた援助、患者さんや家族の立場に立った精神面でのケア、相手を尊重し、思いやる優しい心」であるとの看護観を伝え続けた。そして、

勤務体制整備や看護の質向上のため、病院内にこれまでなかった「看護部」を設置し、看護記録や申し送りの実施・理論に裏付けられた基本的な看護の提供・感染対策などに尽力。その後、帰国することとなった。

しかし、任期終了間際に見た看護師たちの変化に感動し、カンボジア看護のさらなる発展への想いや明るい将来への期待に動かされ、再び同国でのJICA活動を希望。2009年10月、看護部長として配属され、前回の赴任で認識した課題に地道に挑戦し、自立した看護部組織を確立している。

同国の悲惨な環境にある小児の健康向上に寄与できるよう、看護の質向上を目指す活動は、看護部に限らず病院全体におよび、カンボジア国保健省の委員に選ばれるなど、カンボジア医療の発展に貢献している。これらの実績が認められ、カンボジア国王からゴールドメダルを授与、国立小児病院から異例の活動任期延長要請、JICA緒方貞子理事長から表彰されるなど、氏の活動は高く評価されている。また、余暇は、施設や地域の子どもたちへの歯磨き指導や勉強に必要な文具の寄付、フリースクールやスラム街の子どもたちの衛生教育、健康相談などさまざまなボランティア活動に充てている。

楠川氏は、看護管理指導を通して、カンボジアの子どもたちの健康と福祉の向上、自立した看護組織・看護の質向上のため、再び現場で向き合い続けている。



■カンボジア国王からのゴールドメダルを授与される楠川氏



■患者さんとのひと時



■医師、看護師と病棟巡視の打ち合わせを楠川氏